

厚生文教委員会 行政視察報告書

白頭聖志

視察第3日目 2026年5月22日（金曜日）

視察先 滋賀県野洲市

視察項目

「市立野洲病院・地域医療センターの構想から整備まで」



1 概要

野洲市は2004年10月旧野洲町と旧中主町が合併して誕生し、総面積80.15km²、人口は約5万人である。琵琶湖の南側、湖南地域に位置し、京都まで約30分、大阪まで約1時間と交通利便性が高く京阪神のベッドタウンとして発展してきた。

また、豊かな自然と日本最大規模の銅鐸出土遺跡など歴史文化を有している。産業面では、

京セラ、オムロン、村田製作所、P&Gなどの企業が立地しており、安定した雇用や財政基盤の形成につながっている。

2 視察目的

市立野洲地域医療センターの構想から建設までの詳細な進め方、財源内容について

3 視察内容

(1) 市立野洲地域医療センター整備の背景

平成23年、当時の民間病院であった野洲病院から、老朽化や医師不足などにより自力での建て替えや経営継続が困難であるとして、市へ支援要請がなされた。

市としては病院がなくなることで市内の救急医療や高齢者医療の拠点が失われることへの強い危機感から、地域医療を将来にわたり安定的に確保するため、公設公営による市立病院化を決断した。

(2) 新病院整備までの経緯

病院整備の検討は、平成24年から始まり、市長が3人交代する中で方針が二転三転した。

平成29年には住民投票も実施されたが成立にはいたらず、約10年にわたり議論が継続された。その結果、市民から「とにかく早く建ててほしい」という声が高まり、令和4年から新たなプロジェクトでは、スピード感を重視した整備手法が採用された。

(3) 新病院の概要

病床数は、現在と同じ199床であるが、機能を再編し、

・急性期病床：60床 ・地域包括ケア病床：49床 ・回復期リハビリテーション病床：50床 ・障害者病床：40床を整備する計画となっている。

めざす病院像として、①高度急性期病院と在宅医療をつなぐ役割 ②地域診療所の後方支援機能 ③疾病予防やリハビリテーションの充実 ④災害時・感染症対応の拠点機能 ⑤地域包括ケアを支えるコミュニティーホスピタルを掲げている。

4 事業手法とコスト削減

事業手法として、基本設計・実施計画・施工を一括して発注する「デザインビルド方式」を採用している。さらに、コンストラクションマネジメント事業者を導入し、バリューエンジニアリングを実施することでコスト削減を実現している。設計と施工を一体的に進めることで、工期短縮と事業費の適正管理を両立させている点が特徴であった。

5 近隣医療機関との役割分担

湖南地域には県立総合病院など高度急性期病院が複数存在することから、野洲市は競争ではなく役割分担を基本としている。特に不足している回復期病床や地域包括ケア機能を充実させ、市民が住み慣れた地域で安心して医療を受けられる体制づくりをめざしている。

6 所感

今回の視察では、病院整備に置いて最も重要なのは施設そのものではなく「地域医療を将来にわたりどのように守るのか」という明確な理念を持ち続けることであると感じた。

野洲市では、市長交代や住民投票などにより 10 年以上にわたって議論が続いたが、「地域医療をまもる」という目的だけは一貫してぶれることがなかった。また、市民の理解を得ながらスピード感を重視した整備手法を選択したことも大きな特徴であった。

本市においても市民病院の老朽化対策や移転新築の検討を進める中で市民の意見を丁寧に聞きながら、将来の医療需要を見据えた病院機能のあり方を整理するとともに事業手法や財政負担の軽減策について十分に検討していく必要がある。

野洲市の事例は、本市の新たな市民病院整備を進めるうえで、大変参考になる先進事例でした。

